

オオカミ再導入を目指す署名活動にご協力ください!

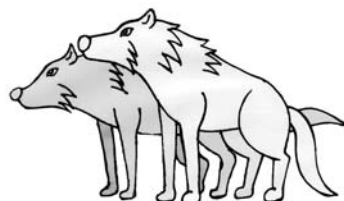
シカの増えすぎから生物多様性豊かな自然生態系を守るために、イノシシ・サル・シカなどの獣害から日本の農林漁業を救うために、絶滅種オオカミの復活を目指して!

明治時代、オオカミ絶滅。現在、ハンターは、高齢化、後継者不在で消滅寸前。シカ・イノシシ・サルたちは増え放題。日本の自然生態系と農林漁業、私たちの生活は全国的に危機!



- 奥山では、増え続けるシカたちの食害によって、貴重な森が枯れ、山が崩れ、土砂が川や湖に流れ出し、多くの生物は住処を奪われ絶滅しつつあります。野鳥や昆虫だけでなく、ライチョウやカモシカまでも追い詰められています。溪流では流出土砂によって、イワナなどの魚類が繁殖を妨げられています。
- 中山間地では、シカだけでなく、イノシシ、サルなどの獣たちが大増殖して、農林業を始めとする里山の産業や生活に大きな被害を及ぼしています。
- 奥山や中山間地での増えすぎたシカによる森林の荒廃で、森林の持つ公益的な機能が劣化しています。流出した土砂は、水源地の河川や湖やダムだけでなく、沿岸海域にまで到達して貴重な沿岸生態系や漁場を埋めています。

日本の自然を救う最後の希望:オオカミ再導入の実現!
オオカミ復活は可能です!



- 日本で絶滅したオオカミは正しくはハイロオオカミです。ハイロオオカミは、北半球の広い地域で生息しています。東アジアでは、中国およびプリモリエ(沿海州)に数多く生息しています。オオカミが絶滅していた樺太(サハリン)では、数年前、氷結した海を渡ってきた一群れが繁殖を始めました。トキとコウノトリと同じように、これらの地域から再導入することによって日本でのオオカミ復活は夢ではありません。
- 私たちが自然に対するマナーを守って、餌付けなどの無用な接触を行わなければ、オオカミは基本的に人に危害を及ぼすことはありません。
- 再導入するオオカミは、もともとわずか百年余り前まで日本に生息していた種です。沖縄のマンガースやアライグマのような外来種ではありません。だから、ずっと昔から仲間同士だった他の野生動物を絶滅させることはありません。日本の生態系と生物多様性に貢献します。自然に対して悪い影響はまったくありません。

オオカミ復活は、環境行政、農林水産行政の仕事です! これらの行政がオオカミの復活を目指して一日も早く活動を始めるように、署名運動にご協力をお願いします。



—森・オオカミ・ヒトの良い関係を考える—
一般社団法人 **日本オオカミ協会**

〒415-0531 静岡県賀茂郡南伊豆町伊浜2687-56

Tel : 0558-64-8800 E-mail : ranf2687@m18.alpha-net.ne.jp HP : <http://www.japan-wolf.org>